

日 時：平成 26 年 9 月 24 日（水） 18 時 30 分 ～20 時

場 所：柏木町コミュニティセンター

対象町会：柏木町

参加者：26 名

■要望、質疑応答

○防災無線について

（市民からの要望・質問）

- ①去年まで静岡県沼津市にいたが、静岡県は東海地震の関係で防災無線等防災関係が進んでいた。平川市の防災無線は一斉放送なので、1 回だけ全部の放送施設に流しているのだと思うが、畑にいと「平川市からの…」 「平川市からの…」と続けて聞こえ、内容がほとんど聞き取れない。沼津市では各地域のエリアごとに分けて放送している。防災無線は皆に聞いてもらうことが必要なので、そのような形にできないか。
- ②防災無線の内容について、気象庁から大雨洪水警報等の発表や Jアラートからも色々と発表されると思うが、そのような放送がされていない。
- ③沼津市では、行方不明者（認知症の方の徘徊）について防災無線で情報提供を求めている。行方不明者の放送はできないのか。見つければ、その旨も放送してほしい。
- ④防災無線が故障した場合の連絡先は周知されているのか。放送が鳴らないだけでなく、鳴りっぱなしもある。管理はどこか。

（市の回答）

- ・昨年度平賀地域に防災無線をつけ、今年度尾上・碓ヶ関地域に設置する予定である。一斉放送もそうだが、音が聞こえづらい、もう少し繰り返して放送してほしい等の要望がある。他市の例を参考にし、今後の使い方について様々なご意見をいただきながら検討したい。
- ・行方不明者の放送は可能である。防災無線だけでなく町会所有の放送設備でもできる。町会長さんがご存知なのではないか。町会内の団体も防災無線を使うことができるので、使い方を周知していきたい。また、黒石警察署管内の市町村で認知症の方の徘徊について連携して取り組んでいる。
- ・防災無線はコンピュータ管理であり、各地区で時間差をつけて放送できるので検討する。
- ・Jアラートについても機能がついており、たまたま今年度そこまでの有事がなかったもので放送されていないだけである。防災無線にそのまま繋がるシステムになっている。
- ・行方不明者について、今年度防災無線で既に周知し、情報提供をお願いした事例がある。
- ・故障については、市役所総務課へ連絡をいただきたい。夜間は警備員がいるので、警備員から総務課担当者へ連絡がくることになっている。

○防災無線について

（市民からの要望・質問）

防災無線のアナウンサーの声が低い。周波数を調べて、高い声の女性を使った方が聞き取りやすいのではないか。ガラス窓を閉めても中に聞こえるような周波数があると思う。声が低いので聞き取りづらいと思う。音量を大きくするのではなく、高音の声の女性を使ってほしい。

(市の回答)

- ・総務課職員が放送している。また、防災無線のコンピュータから音声が出るプログラムにもなっている。そのような意見があったということで、内部で検討したい。

○市街化区域内農地について

(市民からの要望・質問)

市街化区域内の田と区域外の田では固定資産税が違う。柏木町コミュニティセンター裏は、昔、苗代で稲を作る貴重な場所であったが、今は育苗ハウスを使うため、苗代はほとんど使われなくなり、耕作放棄が半分位ある。その場所は5m位市道があるが、水路と段差があり、高齢者が田へ降りていくのは億劫な所である。開発しなければならない土地であって税金が高い。このままだと、開発するごとに田が耕作放棄され逆効果になる。というのも、田へ行くための道路がないからである。開発するためには、農道でもいいので道路があればいい。

明光寺の南側を開発するような話も少し出ている。柏木町東田は、以前、不動産屋が開発しようとしたことがあったが、6m道路を作れず行き止まりになるため断念した。農道として2, 3m程度であれば私道かもしれないが行き止まりの道路がある。付近に5m位の市道に面し、水路がある場所がある。そこから道路を通してつなげれば、開発しなければならない土地が生きてくると思う。

(市の回答)

- ・国や県の指導でいけば、基本的に市街化区域内農地は早く市街化してほしいとしている。ただ、市街化区域内であっても地権者の了解を得なければ、宅地化できない。かつて健康センターもそうであった。市街化区域の真ん中であり、大浪バイパスの周りに建物を建てるため市街化区域にできないかと話をしたことがあった。市街化区域を増やすには、人口が増える予測がなければできないそうである。
- ・今開発されている所は宅地の間にある農地で、用途変更し5～10軒程度の家を建てている。全体的に市街化区域を新たに制定するとなると、弘前市と一緒にした都市計画法の中でやることになるため、なかなかできない。
- ・市で道路を作るとなれば、市で用地買収するのか市に寄附してもらうのかはっきりしなければ、対応策が違ってくる。
- ・評価額については、市街化調整区域よりも市街化区域の方が高いが、農地そのものの評価額は低いので、税額にはそんなに影響がないと思う。調整しながら徐々に上げていると思うので、極端に税額が高いということはないと思う。ただ、市街化区域内農地は宅

地並み課税を行っているので、高いことは高い。

- ・区域内の農地の開発が進むよう道路を整備してほしいとのことだが、あくまでも農地については、開発しやすいことが前提となる。市としては民間業者が開発する場合、道路を含めて開発していただくという考えで進めている。
- ・市が事業主体となって開発していくのであれば、議会の許可を得て進めることになるが、市の方針としては、第一光城、第二光城の宅地開発が終了したので、今後大規模な宅地造成をする予定はない。市で行わなくても健康センター裏、平賀自動車学校脇、ふくしまクリニック後ろ、小和森小の脇等民間業者が宅地造成を進めている。

(市民からの要望・質問)

条件のいいところは宅地開発されていくが、ここは条件が悪く開発されない。それなのに税金が高い。家も建てられず田も作りづらいので耕作放棄地が増えていく。ぜひ考えてほしい。

(市の回答)

- ・今すぐに解決できることではないので、対応を検討したい。

○水害対策について

(市民からの要望・質問)

健康センター裏の開発についてはうれしく思っているが、開発前は田だったので、大雨が降っても水害が抑えられていた。開発後はそこまでの大雨でなくても水害が起きるようになった。市役所職員も度々見に来て対策を講じてはいるが、それ以外にどのような対策をしているのか。

(市の回答)

- ・8月6、7日の水害でかなり被害があったかと思う。健康センター裏から水系をたどって県道大鰐浪岡線の向こう側まで現場を確認した。沖館方面の田の水もバイパスを渡りスーパー佐藤長の裏の辺りで、アップルランド方面に分かれる。その手前で氾濫しているようだ。もう一つの水流が健康センターの方へきているが、旧道の水路だけでは賄えきれず、どのような方法で水を大きい川へ流すことができるのか、市役所内で検討している。
- ・市役所に地下貯水槽を一時的に作り、一旦そこに貯め、水位がある程度下がったらポンプで出すようにすればいいという案がある。もしくは、田本商店の方にある水門を早く開けてもらうよう改良区と話し合い、旧道の水路の水位を早く下げるようにする等考えている。
- ・平川まで水を流すと相当な費用がかかる。地下タンクを作っても相当かかるが、去年の大水害だけでなく今年の雨でも被害が出るようになっていたので頭を悩ませている。

(市民からの要望・質問)

スーパー佐藤長の後ろは古い水路のままである。8月の水害で、健康センターの向かい側の方までだいぶ水が流れてきた。そちらも考えてほしい。佐藤長の裏の水路は前にかさ上げをしたが、流れが滞り、旧平賀幼稚園の間の方へ流れてくる。

(市の回答)

・途中で曲がってアップランド方面へと流れている水路だと思う。現場確認した際、周辺の方から「水路から水があふれるので、どうにかならないか」と伺った。その水路には沖館方面の田からも水がきているので、対応を考えたい。

(市民からの要望・質問)

貯水の関係だが、地下貯水槽のような大々的な物を作るのではなく、プールのような貯水池もある。住宅地で一時的に貯水するならば、その方が安上がりでいい方法だと思う。

○文化センター使用料について

(市民からの要望・質問)

市長選の公開討論会で主催者が使用料を取られたと聞いた。なぜ文化センターを使うのにお金がとられるのか。

(市の回答)

・公開討論会の使用料であれば、市の条例等で使用基準が決まっている。
・公開討論会の開催について、県や市の選挙管理委員会に文化センターを使うことは問題ないと確認したが、使用料減免の仕組みには選挙の公開討論会は含まれていない。主催の方から「明るい選挙推進協議会として公開討論会を行いたい」と話があったが、減免対象とならない決まりである。他市の公開討論会の事例を見ても会場使用料を支払っている。

○水門について

(市民からの要望・質問)

水門の開閉は、市で命令、指示してほしい。上流の水門を開けると下流に流れるので、水門は下流から開けるのが基本なのに、その指示がこない。

柏木町は吹上の方に水門がある。吹上の方は水門を開けないと自分たちの田へ水がこないで開けてくれというが、下流の水門の開閉について確認が取れていない。その状態で開けると、吹上の方はいいが下流は困るので、行政で命令、指示してほしい。

水門に関して消防署も関係しているのか。

(市の回答)

・市単独ではなく、改良区との話し合いが必要となる。話し合いの場をもちたい。

・消防署でも水門の鍵を調整したようだ。消防署とも協議したい。

○市内学校施設内の禁煙について

(市民からの要望・質問)

昨今、禁煙が叫ばれているが、市内の学校施設ではどうなっているのか。今年初めてたけのこマラソンに参加したが、本部テント内に灰皿があった。スタッフが休憩の度に喫煙していたので「ここは禁煙でないのか」と聞いたら、「今日は特別だ」と言われた。今後は徹底してほしい。

(市の回答)

- ・敷地内禁煙を去年から行い、今年さらに徹底をお願いしている。実際、運動会等で父兄が集まった時に敷地内禁煙でいいのかということで抵抗があったが、協力をお願いしている。会場が敷地内であれば当然守っていただくことなので、改めて徹底させたい。
- ・参考までに、10/1 から市役所本庁舎、支所の建物内は完全禁煙となる。申告の際に4階の喫煙所を使用していると思うが、4階と議会のある5階の喫煙所は撤去となる。

○融雪溝について

(市の回答)

融雪溝ができ大変便利になったが、大雪が降ると水の流れが悪く、利用できないような状態になる。水の流れが良くなれば、みんなが利用できる。水がこない、雪を詰めすぎていると毎年苦情が出る。融雪溝へうまく水が入ってきていないのではないか。今、道路の片側だけにしか融雪溝がないが、両側にあればいい。水の流れを検討してほしい。

(市の回答)

- ・融雪溝の条件として、まずは水源の確保があげられる。もう一つは、流末である。これらがなければ融雪溝の設置を求められてもできない。柏木町で既に融雪溝が設置されているということは、その条件をクリアしているということだが、水の量がないというのは現場を確認しなければわからないので、確認したい。
- ・本町の融雪溝の場合、水をポンプで上げており、電気料等を受益者が負担している。

(市民からの要望・質問)

柏木町の場合もポンプで上げ、電気料を受益者が負担している。不要になった水は捨てるを得ないが、その量が多いと聞く。その調整をうまくやってもらえれば、少ない水量でもなんとかなると思う。雪を入れて溶かす「融雪溝」とはいえ、水が流れないことには始まらない。入れた雪が溶けるまで待たなければならないのは大変である。当初の設計を間違ったという話も聞く。

(市の回答)

・黒石市では、水が多いと温度によって雪が溶けずにあふれ出てしまう場合があると聞いた。お湯が流れていけば溶けていくが、氷点下の時に冷たい水に雪を入れても簡単に溶けない。ポンプで水を上げているのであれば、水量の調節を管理している団体が町会にあるのではないか。

(市民からの要望・質問)

ポンプで水を上げている所と川から水が流れてくる所と2つある。冬になれば自然に水が入る融雪溝の方が、水量は少ない。

(市の回答)

・現場を確認する。

○通学路の除雪について

(市民からの要望・質問)

交通安全母の会等交通安全に携わっているが、柏木小学校の通学路でS字カーブになっている所があり、冬は雪が積もり危ない。なんとかならないか。

(市の回答)

・その年の雪の状況にもよるが、危ないようであれば排雪させるようにする。基本的に排雪は行っていないが、土木課へ連絡してほしい。

(市民からの要望・質問)

毎年春には排雪している。ごみ置き場の所が広がっているので、除雪機が雪を置いていく。

(市の回答)

・S字カーブで歩道がない道路だと認識している。建物の影となっているので、春に排雪している。雪が多く降った場合は、各学校に通学路の点検を依頼し、どうしてもダメな時は教育委員会へ連絡をもらい土木課へ通学路の除雪を依頼している。

○職員について

(市民からの要望・質問)

交通安全運動週間に市長たちが街頭指導をするが、職員があれほどいるのだから、今年採用された職員や若い職員をもっと出させてはどうか。この辺で土日が休みなのは公務員だけで、民間企業はそんなに休みがない。休みを利用して月1回でも草むしりやゴミ拾い等のボランティアをさせてほしい。

職員の中でメタボの人が多い。朝やお昼に体操をし、短命県返上に協力すればいい。

(市の回答)

- ・職員のボランティアに関して、強制的にやらせることはできないので「公共人」としての意識付けをしていきたい。
- ・副市長、教育長と課長補佐や係長との意見交換会を行っている。主事や主査等の職員に対して交通安全週間で街頭指導に立つことに限らず、ボランティアの大事さ、市役所職員としての立場・考え方を改めて教育していきたい。
- ・メタボに関しては何とも言えない。

○志賀坊森林公園について

(市民からの要望・質問)

志賀坊高原をもっと子どもたちが自然観察しやすい場所にしてほしい。平川市は体育関係では、県民体育大会をはじめ華々しい活躍をしているが、県の自然観察に関する研究発表会に平川市からほとんど参加者がいない。

志賀坊高原は、その付近の堤を含めると野鳥が年間 70 種類前後観察できる。植物や昆虫も数多く、子どもたちにとって非常に自然観察に適している場所だと思う。

平成 10 年頃に管理棟ができた。ビジターセンターができるのかと期待したら、完成してみると、畳の部屋が 2 つの建物だった。2 つのうち 1 部屋でもいいので、土足のまま入れ、写真や標本等が自由に見られるようにしてほしい。

そして、できれば、月 1 回でも野鳥や植物等の指導をしてもらえるようにできないか。講師は県の自然観察会所属の方に頼めば、高い日当でなくても引き受けてくれると思う。

志賀坊の管理人に管理棟がどのように使われているのか聞くと、志賀坊山野草祭りの時等に数回しか使われていないようだった。

志賀坊森林公園を弘前市久渡寺のこどもの森や梵珠山の県民の森のように、常時職員がいて子どもや自然に関心のある大人へ指導する体制にできないか。

(市の回答)

- ・志賀坊は、景色も良く山野草や野鳥も多い自然豊かな所である。
- ・管理棟は、旧平賀町の時に町会と観光協会で作ったものである。当初は丸太で山小屋を作ったが、雨除けのため管理棟が大きくなっていった。管理は広船町会が行っている。管理棟をビジターセンターにするのには手がかかるので、管理している広船町会に聞いてみないとできない。
- ・学校の先生で、理科の授業でも教科書以外のフィールドワークを教える先生がいればいいと思うが、先生方も忙しい。生物クラブ等の活動をする先生がいれば、きっかけとして、文化センターで生物教室のような事業ができると思う。教育長とも話したい。
- ・小学校中学年以上の子どもは部活動で忙しく、土日はほとんど部活動に出ているが、自然観察に興味関心がある子がいると思うので、検討したい。

(市民からの要望・質問)

管理人は週1日、平日に休んでいる。その人の休みを土曜日にずらして、学校教育とは関係なく親子で参加できる体制にしてほしい。

(市の回答)

- ・管理人は建物管理だけでなく、草刈り、トイレ掃除等もしている。昆虫等の説明は得意ではないと思うので、引率者・指導者が必要となってくる。梵珠山や黒森山には自然観察員がいるので、平川市でも可能か考えたい。

○検診等の無料化について

(市民からの要望・質問)

行政では検診等様々なことで、よく無料にしていると感じるが、タダより高いものはないと思う。無料にするのではなく、少しでも料金をとってはどうか。

無料にする分のお金はどこから出るのか。無料にし、税金も安くなるのであればいいが、高くなるのであれば意味がない。無料にすることで税金が高くなるのではないか。

(市の回答)

- ・目的があり、その手段として無料化している。例えば検診の場合、受診率を上げ、健康寿命や平均寿命を延ばし、介護を必要とせず元気で長生きしようというのが目的である。お金がかかると検診を受けない方が多いので、健康で長生きする市民を増やすための手段として、がん検診等を無料にした。それにより受診率がぐっと上がった。
- ・全体的なことを考えた場合、無料にした分のお金がかかっても、病気が重症化せず、医療費が上がらないのであればいいと思う。
- ・子どもたちに関して、就学前までの乳幼児医療費を無料にすることは他市でも進めており、子育て世帯の負担を軽減することで、出生率を上げ人口を増やすという目的がある。
- ・税金の種類にもよるが、国民健康保険税や介護保険料も含めて高くなったと感じていると思う。市民税そのものは、自主財源として市の財政全体において約2割程度である。他に間接税として国へ納めているものが地方交付税として返ってきている。それらを合わせて平川市の財政が運営されている。無料にしたために税金が高くなるということにはならないと思う。
- ・昨年、三種の検診を無料化したら、受診率が各5%上がり効果があった。

○平川診療所について

(市民からの要望・質問)

平川診療所の利用状況はどうなっているか。当然、職員は「自分の店」なので、優先的に使っていると思うが。平賀病院時代は職員が使わないと聞いたが、今はどうか。

(市の回答)

- ・決算が出ていないためはっきりとはわからないが、燃料費等の費用削減をし、健康セン

ター敷地内へ移ったことで、保健師との連携をとるようにしている。診療時間を延長する等しているが、診療所の事務長から利用者数が伸びているとは聞いていない。

- ・職員も利用している。市長も率先して利用している。現在、電子カルテへ移行中のようだが、1件入力するのに大変な手間であるとのことだった。事務的に慣れていないため、落ち着くまで健康センター内の他課との連携は待っている状況である。
- ・皆さん、ぜひ活用してください。午後は待ち時間が少ない。せっかく作ったものなので皆さんに活用していただきたい。中弘南黒地区は医者と開業医の数が全国平均より多い。患者さんは病院を選ぶと思うので、診療所だけ使うことは難しいが、ぜひ使ってほしい。
- ・今後、救急病院のあり方も検討しなければならない。救急病院は医師も看護師も苦勞している。開業医が多く救急対応病院が少ないので、そのようなことも考えて自治体病院の運営を考えなければならない。自治体病院はほとんどが赤字である。市の診療所も今のままでは厳しい状況になると思う。

○感想及び SNS 等の情報発信について

(市民からの要望・質問)

去年、原発事故の関係で柏木町に引っ越してきた。柏木町がとても気に入っている。先程、融雪溝や無料化の話題が出たので一言話したい。

柏木町柳田の融雪溝も機能していないので、一度見てほしい。状態としては、坂が急なので水路が段々になっており、仕切りがあるので流れが悪くなっている。ポンプを何とかすればいいという話になるかと思うが、実際、受益者負担ということで秋口にお金を支払っている。すぐ雪がいっぱいになるという状態が私の所でもある。

無料化について、私は東日本大震災の被災者なので国民健康保険料は支払っているが、医療費は市の手厚い保護もあって9月以降も無料化となっている。無料化で特に弊害はないが、先程の方がおっしゃったようにタダより高い物はないと感じる。例えば、病院に行き、薬局を利用しても無料なので何も貰えない。レシート等も貰えないので、お願いしてやっと診療明細を貰っている。前に病院に行った日や薬を貰ったタイミングがわからない。ワンコイン(500円)位は貰ってもいいのではないかと常々思っている。

仙台から避難したが、他にも平川市にたくさん原発事故関係で避難してきた方がいらっしゃると聞いているが、どこにどのような方が住んでいるのかわからず、横のつながりができにくい。

中にはこちらに引っ越したにも関わらず、家庭の事情でこの地を去った方、引っ越してきて病気になる、お亡くなりになった方もいると聞くと、実際どうなっているかわからない。雇用促進住宅を被災者のために開放したと聞くと、今は募集していないと思う。

先程の志賀坊高原の話やイベントの話にしても、平川市で何をやっているかわからないことが多い。仕事柄、放送作家と Web デザイナーでインターネット関係の仕事をしているので、東北のずっと端っこにいても東京の方と仕事がきちんとできている。平川市という Facebook のページや Twitter があるにもかかわらず、平川市が何をしているかやイベント

等の情報がまったくはいつていない。

平川市を離れている人がふるさとへ電話をかけるきっかけとなるし、友達を連れてくるきっかけにもなると思う。世界一の扇ねふたがあるにも関わらず、なかなか情報が一般に浸透していないのではないかと思う。

平川市の Facebook をご覧いただければわかるが、私の名前で去年9月の大洪水の様子を撮影、編集したものや、志賀坊高原からの眺めがあまりにも美しいので写真に撮って、載せている。非常に観光資源にも恵まれているし、都会人から言わせれば宝の持ち腐れが非常に多い。

先程の診療所の話に関しても、診療所ができたことをわからなかった。たまたま市役所に行った時に、足が痛いので湿布を貰いたいと思っていたら、目の前で診療所の話をしている方がいてわかった。リアルタイムで情報を発信してほしい。水防に関してもそうだが、今はインターネット、スマートフォンやメールを受信する設備をもっているのだから、こまめに市が行っていることを流せば、いろんな人が動いてくれるのではないか。

(市の回答)

- ・平川市として、これから全国にいいイメージを発信していきたい。Facebook 等活用して全国の皆さんに生産物のみならず、観光資源、イベント情報の発信を強化したい。